

ポーランド政治・経済・社会情勢

(2014年3月20日～26日)

平成 26 年(2014 年)3 月 28 日

H	E	A	D	L	I	N	E	S
政治 「市民プラットフォーム」(PO)及び「法と正義」(PiS)が欧州議会選挙に向けて党大会を実施 シェモニャク国防相がウクライナ情勢をめぐり各国国防相と協議 トウスク首相が欧州理事会に出席 コモロフスキ大統領がハンガリーを訪問 クリミアのウクライナ人によるポーランドへの難民申請 シコルスキ外相が核セキュリティ・サミットに出席 ウクライナ情勢に対する政府関係者の発言 シコルスキ外相がウクライナを訪問 コモロフスキ大統領による軍高官への年次ブリーフィング								【お願い】3か月以上滞在される場合、「在留届」を大使館に提出してください。大規模な事故・災害等が発生した場合、所在確認・救援の根拠となります！ 問合せ先 大使館領事部 電話 22 696 5005 Fax 5006 各種証明書、在外投票、旅券、戸籍・国籍関係の届出についてもどう
経済 HSBCが経済成長予測を上方修正 過半数のポーランド人がユーロ圏への参加に反対 ポーランドの産業部門の労働コストは7.5ユーロ／時でドイツの1／5 2月の失業率は13.9% 2月の新規受注が大幅に増加 2月の消費が増加 PESA社が大胆なビジネスを行った企業としてFT紙から表彰される タウロン社がワギンシャ発電所の新規ユニット建設でPIR社と協力 トウスク首相がEUのロシアへのガス依存から独立すべきと主張 国有財産省が国有企業間の協力を促す トウスク首相がメルケル首相はエネルギー連合の進展を望んでいると発言 トウルフ発電所石炭火力ユニット新設プロジェクトでの却下判定に上海電力は不服申立方針								
大使館からのお知らせ 大使館広報文化センターの開館時間延長について 東日本大震災義捐金受付について 文化行事・大使館関連行事								
在ポーランド日本国大使館 ul.Szwolczerow 8, 00-464 Warszawa Tel:+48 22 696 5000 http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm								

政	治
内	政

「市民プラットフォーム」(PO)及び「法と正義」(PiS)が欧州議会選挙に向けて党大会を実施【22日】

22日、与党「市民プラットフォーム」(PO)及び最大野党「法と正義」(PiS)は、5月25日に実施予定の欧州議会選挙に向けて党大会を開催した。PO党大会においては、トゥスク首相が今次欧州議会選挙は欧州が今後生き延びられるかどうかを決定

する非常に重要なものである旨述べた。また、同党大会には来賓としてウクライナのクリチコ・ウダール党党首が出席した。一方、PiSの党大会においては、カチンスキ党首がPiSの候補者はEUの直面しているネガティブな傾向に対抗する術を知っている専門的な陣容になる旨述べた。

外	交
---	---

シェモニャク国防相がウクライナ情勢をめぐる各国国防相と協議【20～21日】

20日、シェモニャク国防相はビヤウストク(Bialystok)においてオレカス・リトアニア国防大臣と会談し、ウクライナ情勢を受け、共同演習等、各種軍事協力について協議。また21日にはワルシャワを訪れたル・ドリアン仏国防大臣と会談。ル・ドリアン大臣は、ポーランド及びバルト諸国への協力として戦闘機4機及びAWACSの派遣を提案。さらに同日、シェモニャク国防相は、ルーマニアを訪問。ドゥシャ国防大臣と会談し、ウクライナ情勢に関し意見を交換した。

トゥスク首相が欧州理事会に出席【20～21日】

20～21日、トゥスク首相は欧州理事会に出席した。同理事会では、ウクライナ情勢に関し、対ロシア制裁の渡航制限及び資産凍結の対象リストの拡大、ロシアと首脳レベルの協議を実施しない方針等を決定した他、ウクライナ政府との間で連合協定の政治部分への署名が行われた。

コモロフスキ大統領がハンガリーを訪問【21～22日】

21～22日、コモロフスキ大統領はハンガリーを公式訪問し、21日には、アーデル大統領とウクライナ情勢を主要議題とする首脳会談を行った。22日、コモロフスキ大統領は、アーデル大統領と共に地方都市エゲルを訪問し、同地で開催された「ハンガリー・ポーランド友好の日」記念式典に出席した。

クリミアのウクライナ人によるポーランドへの難民申請【21日】

21日、ポーランド国境において、クリミアから逃れてきたウクライナ人32名が難民申請を行った。当初ウクライナ側は同32名がクリミア・タタール人である旨発表していたが、ポーランド国境警備隊は、彼らがクリミア・タタール人ではなく5カ月～18歳の子供を含む7家族で構成されている旨発表した。

シコルスキ外相が核セキュリティ・サミットに出席【24～25日】

24～25日、シコルスキ外相は核セキュリティ・サミットにポーランドを代表して参加した。同外相は、ウクライナは1994年に、現在まさに国際社会が北朝鮮に求めていることを実現した、1994年のブダペスト宣言のような安全保障の信頼性が維持される必要があり、核保有を目指している国に対し、この種の保障が信頼できるものであり当該国の将来の利益となることを示すためにも、ウクライナの領土一体性の回復が非常に重要である旨述べた。

ウクライナ情勢に対する政府関係者の発言【24、26日】

24日、コジェイ国家安全保障局長官はジェンク紙のインタビューにおいて、今後のウクライナ情勢について①沿ドニエステルを獲得、②軍事力を行使せずウクライナの不安定化と影響力拡大を図る、③緊張緩和策への移行、という3つのシナリオを予測。残念ながら3つ目の緊張緩和に向かう可能性は最も低いとコメント。また、シェモニャク国防相は26日、ラジオ番組内でウクライナ情勢に関連し、ポーランドは安全であることを強調しつつ、脅威の存在とそれに対する備えが必要であると発言。

コモロフスキ大統領による軍高官への年次ブリーフィング【26日】

26日、参謀本部においてコモロフスキ大統領による軍高官に対する年次ブリーフィングが開催された。ポーランドの体制転換25周年、NATO 加盟15周年、EU加盟10周年、そして現在のウクライナ情勢を受け、自国防衛の重要性とその基礎となる軍近代化(特に防空システム)の推進及び予備役の募集・編成要領改善等について訓示を行った。

シコルスキ外相がウクライナを訪問【26日】

26日、シコルスキ外相がウクライナのキエフ及びオデッサを訪問した。同外相は、キエフにおいて、ヤツェニウク首相及びデシチュツァ外相等と会談した。

シコルスキ外相は、現在のウクライナは国家を近代化させる大きなチャンスを持っており、新政権がこのチャンスを無駄にしないことを期待する旨述べ、ウクライナ政府に対してポーランドが地方分権化プロセス、財政歳出改革及び汚職対策に対して助言を行う

ことを提案した。また同外相は、オデッサにおいて、地方政府関係者との会談、在オデッサ総領事館訪問、大学における欧州統合に関する講演等を行った。

経 済

経済・財政政策

HSBCが経済成長予測を上方修正【20日】

HSBCは、最新の経済予測報告で、2014年の経済成長率を3.0%から3.2%に、2015年を3.3%から3.6%に上方修正した。この先2年間は2013年とは対照的に内需が回復し、ウクライナ問題及び新興国市場の景気低迷を受け外需は減少すると説明している。また、2014年中の政策金利引き上げは難しく、為替レートは1ユーロ3.9ズロチ程度まで上昇すると予想している。

過半数のポーランド人がユーロ圏への参加に反対【26日】

TNS Polska 社の世論調査において、過半数(52%)のポーランド人が、通貨ユーロの採用がポーランドに悪影響をもたらすと回答した。昨年12月に実施した前回調査よりも2%pt増となった。他方、わずか14%がユーロはポーランドに良い影響を及ぼすと答え、22%が影響はないと回答した。ポーランドはユーロを採用すべきとの回答は計44%で、前回調査から1%pt減だった。

マクロ経済動向・統計

ポーランドの産業部門の労働コストは7.5ユーロ／時でドイツの1／5【21日】

ユーロスタットの統計データを基にジェチポスポリタ紙が算出した結果によれば、昨年のポーランドの産業部門の労働コストは1時間あたり7.5ユーロで、ドイツはポーランドの5倍、逆にブルガリアはポーランドの半分だった。前年比では、3.3%増だった。ポーランドは西欧諸国と比較すると賃金の安さが魅力的であるが、他の中・東欧諸国と比べるとそれほど魅力的でもない。例えば、リトアニアは同6ユーロ、ブルガリアは3.5ユーロである。

人を含む、23,900人を解雇予定と発表している。

2月の新規受注が大幅に増加【25日】

中央統計局(GUS)によれば、2月の新規受注は前年同月比で1月の同6.5%増から更に増加した12.5%増となった。前月比では1月の同28.2%増から4.7%減に減少。新規輸出受注は、同年前月比で1月の同5.8%増から20.1%増に大きく増加し、前月比では1月の同27.4%増に対し0.9%増となっている。

2月の失業率は13.9%【25日】

中央統計局(GUS)によれば、2月の失業率は前月の14.0%及び前年同月の14.4%より改善された13.9%となった。また、2月末の登録失業数は225,590人、新規求人は前月の76,200人及び前年同月の82,800人より多い97,400人。250の組織団体が近い将来公共部門3,100

2月の消費が増加【25日】

中央統計局(GUS)によれば、2月の小売販売は前年同月比で1月の同4.8%増から更に上昇した7.0%増、前月比では1月の同21.3%減から回復した0.6%増となっている。専門家は、前年同月比6.2%増、前月比1.4%減と予想していた。

ポーランド産業動向

PESA社が大胆なビジネスを行った企業としてFT紙から表彰される【24日】

ポーランドの鉄道車両等製造を行うPESA社は、フィナンシャル・タイムズ紙とアルセロール・ミッタル社による、大胆なビジネスを行った企業を称える「Boldness in Business」表彰の起業家精神(Entrepreneurship)部門で、Twitter社等を抑え、中・東欧企業として初受賞となった。授賞式に於い

てザボクリツキCEOは、10年ほど前にほぼ倒産状態にあった会社にとって本表彰は大きな成功であると述べた。PESA社は技術者を含む約3,700人を雇用し、鉄道車両の製造・改良を行っている。同社の成功の一つは、2012年にドイツの地方の鉄道会社であるDBRegio社と12億ユーロの2018年までの枠組み合意を締結したことである。

タウロン社がワギシャ発電所の新規ユニット建設でPIR社と協力【21日】

タウロン社（ポーランド第2位の国有電力会社）と政府系投資会社「ポーランド投資開発（PIR）」は、ワギシャ発電所において、コンバインド・サイクル型の新規発電ユニット建設に対し、最大7.5億ズロチ出資することを保証する契約に署名した。プロジェクト全体では、15億ズロチ（約500億円）を要することから、PIRが最大で半額を担うこととなる。タウロン社は、ワギシャ発電所の120MWの石炭火力ユニットを2017年に停止する予定であり、2018年までに電力：413MW及び熱：266MWのコンバインド・サイクル発電ユニットを建設することを計画している。

トウスク首相がEUのロシアへのガス依存から独立すべきと主張【24日】

トウスク首相は、EUの対ロシア・ガス依存から脱却する観点から、今回の欧州理事会で、欧州委員会に対しEUの対外エネルギー依存度を引き下げるための包括的な計画を6月までに提出するよう求めるとの結論に至ったことを高く評価した。エネルギー・気候変動パッケージにおける新たな目標等については、今回の欧州理事会では合意しなかったことを評価し、ポーランドが負うことになる負担に関する詳細な試算結果や、補償メカニズムについて情報が得られるまでは議論することに反対であることを明言した。

国有財産省が国有企業間の協力を促す【24日】

カルピンスキ国有財産相及びガヴリク副大臣と10名以上の大手国有企業の社長、副社長が参集する首脳会議が開催された。カルピンスキ大臣は、国有企業の「効率性」を高めることを望んでおり、主要企業が実行する戦略プロジェクトにおける協調プログラムを検討している。主要企業には、PZU（保険）、PKO BP（銀行）、BGK（銀行）、PKNオレン、ロトス（石油精製等）、KGHM（銀・銅鉱山）、PGE、Enea、タウロン、エネルギー（いずれも電力）、PGNiG（石油・ガス）、PERN（石油パイプライン等）、PIR（投資）及びARP（産業開発）が含まれている。これらの企業の経営者は、戦略計画の見直し及び優先順位づけや、他の国有企業との提携可能性について検討を求められる。次回会合は6月に開催される予定で、国有企業の経営者陣営は、

国有財産省に検討結果を示すことが期待されている。

トウスク首相がメルケル首相はエネルギー連合の進展を望んでいると発言【26日】

ドイツのメルケル首相はプロセスが複雑ではあるが、EUエネルギー連合の構築の進展を見ることを望んでいると、トウスク首相は述べた。トウスク首相は、共通ガス購入戦略は、ロシアによるガスの影響から欧州を開放する最良で最速の解決策であると述べている。メルケル首相の立場について問われ、トウスク首相は、メルケル首相はエネルギー連合の優位性について疑っていないが、ドイツ企業がロシアのガスに依存していることから、その構築が複雑な事態になることを懸念していると述べた。トウスク首相は、あらゆる難解性にかかわらず、数力国はEUにおいてエネルギー連合を形成すべきとの見方を共有していると述べた。今月初旬には、メルケル首相はワルシャワでドイツ及びEUは、共通エネルギー市場を望んでいると述べたが、ガスを利用している企業の立場次第であると言及していた。

トゥルフ発電所石炭火力ユニット新設プロジェクトでの却下判定に上海電力は不服申立方針【26日】

上海電力グループ（SEG）は、PGE GiEK社（PGEグループの発電部門）のトゥルフ発電所の新規石炭火力発電ユニットの建設に係る入札の判定について、28日までに、国家不服申立機関に申し立てる。同社の提案は、最低価格を提示したにもかかわらず、却下された。SEGは、落札した日立パワー・ヨーロッパ社、MHPSヨーロッパ社、ブディメクス社（建設）及びEecnicas Reunidas Energia社のコンソーシアムが提示した価格よりも11.7億ズロチ低い30.8億ズロチで新規ユニットを建設することを提案していた。SEG社側は、却下の判定について、事実には則しておらず、また、公共調達法に反していると主張しているが、PGE社側は、SEG社の提案は技術的及び規則に基づく理由で却下されたと述べている。今回の入札の判断要素のウェイトは、価格要素は85%、技術的要素は15%だった。

大使館からのお知らせ**大使館広報文化センターの開館時間延長について**

毎週月曜日の開館時間を19時まで延長しています。火曜日から金曜日までは、従来どおり9時から17時まで

でのご利用となります。

問合せ先: 在ポーランド日本大使館広報文化センター(電話: 22 584 73 00 , E メール: info-cul@wr.mofa.go.jp,
住所: Al. Ujazdowskie 51, Warszawa)

東日本大震災義捐金受付について

当館における東日本大震災義捐金受付は、平成26年3月31日(月)までに延長いたしました。詳しくは下記HPをご覧ください。

<http://www.pl.emb-japan.go.jp/jishin/gienkin.j.htm>

文化行事・大使館関連行事

〔予定〕ポ日青年合唱団のコンサート【3月29日(土)17:00】

タルノフスキエ・グリ市のタルノグルスキエ文化センターにて、日本とポーランドの青年合唱団のコンサート「We are the future of the world」が開催されます。

開催場所: タルノグルスキエ文化センター, ul. Sobieskiego 7, タルノフスキエ・グリ市

問い合わせ先: E メール: biuro@tck.net.pl, 電話: 32 285 27 34

〔予定〕第4回国際新極真空手選手権大会【4月5日(土)】

コビエジツェ市にて、コビエジツェ市文化スポーツセンター主催による、第4回国際新極真空手選手権大会が開催されます。

開催場所: Hala Sportowo-Widowiskowa, ul. Debowa 20, Kobierzyce

問い合わせ先: E メール: biuro@kultura-kobierzyce.pl; 電話: 71 3111-200

〔予定〕ポーランド相撲選手権大会【4月6日(日)】

ワルシャワ市ファレニツァ区にて、ポーランド相撲協会による相撲大会が開催されます。

開催場所: OSiR, ul. Poezji 5, ワルシャワ市

詳細: www.sumo.org.pl

〔予定〕第16回ワルシャワ経済大学日本デー【4月8日(火)～10日(木)】

ワルシャワ経済大学にて、日本デーが開催され、日本に関する講演及び映画上映などが行われます。

開催場所: SGH, al. Niepodleglosci 162, ワルシャワ市

詳細: www.sgh.waw.pl

〔予定〕大山空手選手権大会【4月12日(土)～13日(日)】

アンドリホフ市にて、マウオポルススキ空手クラブ、アンドリホフ市の共催による、空手選手権大会が開催されます。

開催場所: Hala Sportowa Gimnazjum nr 1, ul. Daszyńskiego 14, アンドリホフ市

問合せ先: E メール mkk@mkk.wer.pl 電話 602 444 306

〔予定〕「砂の女」演劇【4月24日(木)】

ウッジ市にて、ウッジ音楽劇場主催による、安倍公房の小説「砂の女」に基づいた演劇の初演が行われます。

開催場所: Teatr Muzyczny w Lodzi, ul. Polnocna 47/51, Lodz

詳細: <http://teatr-muzyczny.lodz.pl/content.aspx?cmsId=1940>

問い合わせ先: bow@teatr-muzyczny.lodz.pl

〔予定〕第8回日本デー【4月26日(土)～27日(日)】

ウッジ市にて、ウッジ大学経済社会学部主催による、日本文化デーが開催され、日本に関する講演や日本武道のデモンストレーションが予定されています。

開催場所: ウッジ大学経済社会学部, ul. POW 3/5, Lodz

詳細: http://www.yakumo-goto.pl/index_jp.html

〔予定〕欧州相撲選手権大会【4月26日(土)～27日(日)】

ワルシャワ市ファレニツァ区にて、ポーランド相撲協会による欧州相撲選手権大会が開催されます。

開催場所: OSiR, ul. Poezji 5, ワルシャワ市

詳細: www.sumo.org.pl

〔開催中〕「松、鶴、富士山」屏風展示【1月28日(火)～4月13日(日)】

クラクフ日本美術技術博物館「マンガ」にて、日本の屏風展示「松、鶴、富士山」を開催中です。

問合せ先・開催場所: 「マンガ」日本美術技術博物館(住所: ul. Konopnickiej 26, Krakow, 電話: 12 267 37 53, E

メール: muzeum@manggha.krakow.pl, ホームページ: <http://www.manggha.krakow.pl/>)

この資料は、ポーランドの政治・社会情勢を中心に、各種報道をとりまとめたものです。

報道をベースにしておりますので、記載事項の信頼性については責任を負いかねます。

記載事項は在ポーランド日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。

皆様からの情報提供をお待ちしています

大使館では、読者の皆様に幅広くポーランドの情報をお伝えするため、皆様からの情報をお待ちしています。社会・生活情報やおすすめのイベント、困ったことなど、皆様に伝えたいと思われる情報があれば、下記のアドレスまでご連絡ください。(営利目的など、内容によっては対応できかねる場合もありますのでご了承ください。)

【お問い合わせ・配信登録】

本資料は、ポーランドに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。「新たに配信を受けたい」、「送付先メールアドレスを変更したい」、「配信を停止したい」等の依頼につきましては、下記のアドレスまでご連絡ください。

大使館ウェブサイト(http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm)も併せて御覧ください。

[在ポーランド日本国大使館 news@mail@wr.mofa.go.jp](mailto:news@mail@wr.mofa.go.jp)

(ご連絡は電子メールでお願いします。)